

福祉サービス第三者評価結果報告書（令和7年度）

2026年2月26日

足立区教育委員会

〒 150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷3-8-12

渋谷第一生命ビルディング7階

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号

機構 20-253

電話番号 03-6427-7451

代表者氏名 岡 知己



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・ 評価者養成講習修了者番 号	評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	経営	H2101075
	②	福祉	H2401014
	③	経営	H2301023
	④		
福祉サービス種別	小規模保育事業		
評価者対象事業所名	木下の保育園 五反野		
事業所連絡先	〒	120-0015	
	所在地	東京都足立区足立4-13-9ベルビュービルディング1階	
	TEL	03-3849-2322	
事業所代表者氏名	山崎 由起子		
契約日	2025年6月18日		
利用者調査票配布日 (実施日)	2025年10月6日		
利用者調査結果報告日	2025年10月20日		
自己評価の調査票配布日	2025年10月6日		
自己評価結果報告日	2025年10月20日		
訪問調査日	2025年11月21日		
評価合議日	2026年2月26日		
コメント (利用者調査・事業評価の工 夫点補助者・専門家等の活 用、第三者性確保のための 措置などを記入)	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象とした利用者調査をおこないました。園から利用者調査案内を配布し、WEBにて回答してもらう形式にしました。きょうだいで利用している場合は、年齢が低い方の利用者について回答をしてもらいました。職員へのアンケートは紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、事故簿やヒヤリハット等の書類の閲覧をして状況把握に努めました。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

事業者代表者氏名 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号

新宿アイランドタワー29階

株式会社 木下の保育

代表取締役 熊地 昌治

2026年 2月 27日



〔事業者の理念・方針、期待する職員像：小規模保育事業〕

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	(1)生きる力を創る（保育理念に基づいた子ども一人ひとりの育ちや個性を大切に保育を行う） (2)協調性（仲間を大切に、思いやりのある子ども・他者を尊重し認め合う心を育てる） (3)のびのび（心身ともに健やかで意欲的に活動できる子ども・のびのびと自己表現ができる環境を提供する） (4)試行錯誤（最後まで諦めず、行動できる子ども・試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う） (5)探索活動（挑戦することを楽しみ、自ら表現する子ども・探索活動を大切に、こどもの興味や関心に寄り添う）
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児から2歳児という心と身体の基礎が著しく発達する重要な時期に携わることを自覚し、責任感を持って園児一人ひとりと丁寧に向き合おうと努力する人材 ・ 園全体の職員が一つのチームとしてそれぞれの役割を持ち、協力しながら保育を進めていこうとする協調性のある人材
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各家庭より大切なお子さん（命）を預からせてもらっているという意識と責任感を持ち専門職として保育に向き合おうとする姿勢。 ・ 保育の場として、職場としてより良い環境を協力し合いながら築こうとする積極性。 ・ 園児・保護者・職員と笑顔で向き合える朗らかで安心感を与える雰囲気。

〔利用者調査：小規模保育事業〕

調査対象	本園12世帯（利用者12名）を調査対象とし、9世帯より回答を得た。1世帯1回答とし、複数のこどもが利用している場合は年齢の低い方のこどもを対象に回答。		
調査方法	アンケート方式 ID・パスワードを記載したWEB用アンケート案内文を園から全世帯に配布し、WEBにて回答してもらう方法で実施。		
	利用者総数	12	
	利用者家族総数（世帯）	12	
	共通評価項目による調査対象者数	12	
	共通評価項目による調査の有効回答者数	9	
	利用者総数に対する回答者割合（%）	75.0	

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が77.8%、「満足」は22.2%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて100%という、大変高い評価を得ています。自由記述では、「いつも明るく元気にこどもを迎えてくださり、楽しそうに通園できています。」というコメントがありました。

利用者調査結果

コメント欄を必ず入力してください

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。自由記述では、「同学年のお友達との関係性を作ることが、楽しくもあり精神面での成長を促していると思います。」というコメントがありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。自由記述では、「生き物に触れる機会や食育など、なかなか家庭では出来ないことを積極的にやってくれていて、本人も興味深そうにしています。」というコメントがありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	8	1	0	0
この項目では「はい」の回答が88.9%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、とても高い評価を得ています。自由記述では、「バランス良く出してくださっていると思います。」というコメントがありました。				

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	1	0	1
この項目では「はい」の回答が77.8%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」は0%、「無回答・非該当」は11.1%という結果となり、高い評価を得ています。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	8	1	0	0
この項目では「はい」の回答が88.9%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、とても高い評価を得ています。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。自由記述では、「入園の際にも、詳しくこどもの状況を聞いてくださいましたし、在園中も細かく確認してくださいます。とても助かっています。」「アプリの連絡帳と送り迎えのタイミングで、先生方が様子をお話ししてくださり、安心しています。」というコメントがありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。				

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	8	1	0	0
この項目では「はい」の回答が88.9%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、とても高い評価を得ています。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	1	0	1
この項目では「はい」の回答が77.8%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」は0%、「無回答・非該当」は11.1%という結果となり、高い評価を得ています。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	9	0	0	0
この項目では「はい」の回答が100%、「どちらともいえない」、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	1	0	1
この項目では「はい」の回答が77.8%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」は0%、「無回答・非該当」は11.1%という結果となり、高い評価を得ています。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	7	1	0	1
この項目では「はい」の回答が77.8%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」は0%、「無回答・非該当」は11.1%という結果となり、高い評価を得ています。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	1	0	0
この項目では「はい」の回答が88.9%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、とても高い評価を得ています。自由記述では、「不満はありませんが、要望をお伝えした際にできること・できないことをはっきりと伝えてくださるので分かりやすいです。」というコメントがありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	6	1	0	2
この項目では「はい」の回答が66.7%、「どちらともいえない」は11.1%、「いいえ」は0%、「無回答・非該当」は22.2%という結果となりました。				

〔組織マネジメント：小規模保育事業〕

1 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1（1-1）		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している 評点（ ●● ）		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事務所をリードしている 評点（ ●● ）		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点（ ●●● ）		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリー1の講評		カテゴリー1の講評を入力してください
	<p>① 職員や保護者に対して多様な媒体や機会を通じて理念を周知し、理解を促しています 法人が作成した「保育の心得」を職員一人ひとりに配布し、年度始めや年度途中の職員会議で読み合わせや確認をおこない、理解を深めるよう努めています。採用面接や園見学の際には本社本部の職員や園長が理念について説明するほか、各保育室や事務所、玄関へ掲示して日ごろから意識できる環境を整えています。保護者に対しては、園見学の際にパンフレットを用いて説明し、入園前面談では重要事項説明書をもとに読み合わせをおこない理解を促しています。さらに、ホームページや自治体の検索サイトなど、多様な媒体に情報を掲載して周知しています。</p> <p>② 役割分担の明示に加え、園長が対話を通じて理念に基づく行動指針を伝えています</p>		

年度始めに役割分担表を作成して事務所に掲示し、各職員が計画を立てて業務を進められる体制を整えています。また、園長は、こどもの命を預かる責任を最優先事項として日々職員へ声かけをおこない、報告・連絡・相談を徹底するよう指導しています。さらに、職員との会話を通して考えや悩みの把握に努め、具体的な事例を用いながら取り組むべき方向性を示しています。保育理念である「生きる力を創る」の実現に向けて、どのように行動することが大切であるかを丁寧に説明し、職員一人ひとりの理解が深まるよう働きかけています。

③ 決定事項は定める手順を踏んで検討し、職員や保護者へ多様な手段で周知徹底しています
 運営に関する重要な案件は、本社本部、園長会議、職員会議の手順で検討・決定をおこなっています。決定事項は内容に応じて職員会議や個別で伝達するほか、事務所への掲示や会議資料の配布により周知しています。欠席者には会議録や園日誌の確認と押印を求め、情報の共有漏れがないよう園長が最終確認をおこなっています。保護者には、保育施設向けICTシステムの一斉配信機能やおたよりの配布に加え、降園時に口頭で説明するなど丁寧な周知に努めています。現場の裁量による事項は、提案をもとに話し合い、園長が最終決定しています。

2

カテゴリー 2

事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー 1 (2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点 (●●●●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー 2 (2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点 (●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目 2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点 (●●)

●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目 2 虐待に対し組織的な防振対策と対応している 評点（ ●● ）		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー 3（3-3）		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目 1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点（ ●● ）		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目 2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点（ ●●● ）		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー 3 の講評		カテゴリー 3 の講評を入力してください
<p>① ガイドラインの活用や自己評価で倫理観を高め、組織的な虐待防止体制を確立しています 法人作成の「保育の心得」や「足立区の保育の質のガイドライン」を活用し、年度始めや途中の会議で読み合わせをおこない法令遵守や倫理観の理解を深めています。また、行政の定める「保育実践振り返りシート」による自己評価や園長面談を通じて、コンプライアンス意識の向上や言動の振り返りを促しています。さらに、昼礼での不適切な言葉遣いへの注意喚起や、職員同士が気づいた点を伝え合う体制を設けることで、組織的な虐待防止策を図っています。虐待の疑いが生じた際は、園長や本社本部へ報告し、速やかに関係機関と連携する体制を整えています。</p> <p>② 苦情解決制度の周知に加え日々の対話で要望を把握しマニュアルにもとづき対応しています 苦情解決制度については、入園前の面接時に重要事項説明書を用いて説明をおこなうほか、園の相談窓口や行政の窓口を玄関に掲示して周知を図っています。登降園時の保護者との会話や連絡帳のやり取り、電話対応など、さまざまな方法を通じて保護者の意向や要望の把握に努めています。寄せられた意見や苦情に対しては、法人が作成した苦情対応マニュアルをもとに速やかに対応する仕組みを整えています。解決に向けては、園長が内容を把握して検討をおこない、案件に応じて本社本部と相談しながら、組織的に誠実な対応ができるよう体制を構築しています。</p>		

③ 媒体を用いた情報発信や地域資源を活用した交流をおこない開かれた園を目指しています
ホームページや検索サイトでの情報発信に加え、パンフレットを玄関やテラスに設置して自由に持ち帰れるようにするなど、園の情報を公開して運営の透明性を高めています。また、小規模保育事業所連絡会や要保護児童対策地域協議会への参画に加え、一時預かり事業を実施して地域の福祉ニーズに 대응しています。さらに、子育てホームサポーターの実習受け入れや、近隣の高齢者施設の訪問、散歩の際に商店や図書館、消防署など公共施設の利用などを通じて、地域の方々と積極的に交流を図り、地域に根差した園づくりに取り組んでいます。

4

カテゴリ 4

リスクマネジメント

サブカテゴリ 1 (4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点 (●●●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ 2 (4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点 (●●●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリ 4 の講評

カテゴリ 4 の講評を入力してください

- ① 計画的な訓練や備蓄の確保に加え保護者への周知徹底により危機管理体制を整えています
法人本部が作成した危機管理マニュアルやBCP（事業継続計画）をもとに、リスクの洗い出しと対策の優先順位付けをおこなっています。緊急時の対応フローや職員配置表を各部屋に掲示するほか、毎月の避難訓練や年2回の不審者対応訓練を実施して有事に備えています。また、災害用備蓄として3日分の食料と水を確保し、戸外活動時には置き去り防止のための確認作業を徹底しています。BCPは事務所や玄関に設置して職員や利用者が常に確認できる状態にし、入園時には保護者へ避難場所を周知するなど、共通理解を図る環境を整えています。
- ② 事故報告の分析や系列園との情報共有により組織全体で未然防止に取り組んでいます
事故やトラブルが発生した際は、直ちに園長へ報告するとともに、ヒヤリハット報告書や事故報告書を作成して職員間で共有しています。実際に起きた事案だけでなく、事故につながる可能性のある予測事案も記録し、毎月の会議で分析して再発防止策を検討しています。重大事故や他園での事例については、本社本部や系列園全体で情報を共有し、原因究明と対策の見直しをおこなって未然防止に努めています。日々の昼礼でも関連情報を積極的に取り上げ、職員一人ひとりが事故を予測する力を養い、安全な保育環境の維持に取り組んでいます。
- ③ ガイドラインにもとづき書類やデータの管理を厳格化し情報漏洩防止を徹底しています
法人が定める個人情報管理ガイドラインや「保育の心得」をもとに、情報の収集・利用・廃棄に関する厳格なルールを運用しています。個人情報を含む書類は鍵付き書庫で保管し、特に重要な書類は園長のみが管理する体制をとっています。電子データについてはアクセス権限を設定し、USBメモリの使用禁止や画像データの厳格なルールを設けて情報漏洩を防止しています。また、入職時および退職時には職員から守秘義務に関する誓約書の提出を求めるとともに、保護者には入園時に個人情報の利用目的を明示して同意書を取得し、適切な管理に努めています。

5

カテゴリ 5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ 1 (5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する
人材の確保・育成・定着に取り組んでいるサブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点 (●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目 2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点 (●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目 3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点 (●●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○非該当

し		
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目 4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点 (●●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー 2 (5 - 2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点 (●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー 5 の講評

カテゴリー 5 の講評を入力してください

- ① 職員の意向把握や環境整備に努めチーム保育の推進により働きがいを創出しています
採用活動は本社採用課が主導し、SNSや紹介制度を活用しています。配置にあたっては職員の意向を考慮しているほか、新卒や2年目研修、メンター制度、役職別研修を通じて人材育成にも取り組んでいます。定着に向けては、年4回の面談や日頃の対話で職員の意識や悩みを把握し、風通しの良い職場環境づくりに努めています。また、公平な休暇取得や事務時間の確保、グループ優待制度などの福利厚生を整備しています。正規・非正規を問わずチームで保育を推進し、互いに称賛し合う文化を育むことで、職員の意欲向上と働きがいの創出を目指しています。
- ② キャリアパスの明示や指導担当者への支援をおこない組織的な人材育成を図っています
職員の意向に沿ったキャリアパスを策定し、本社へ報告するとともに、研修受講計画を事務所に掲示して周知しています。面談を通じて職員の希望と園の育成方針をすり合わせ、動画研修やキャリアアップ研修など、勤務形態に関わらず個々の経験に応じた計画を作成しています。研修は勤務時間内に受講できる体制を整え、オンラインや外部研修への参加も支援しています。また、指導担当職員に対しては、園長が助言をおこなったり役割理解のための動画研修を実施したりして、組織的なサポート体制を構築しています。
- ③ 学びの共有や活発な意見交換をおこない互いに支え合うことで組織力を高めています
研修で学んだ内容は報告書にまとめて事務所で閲覧可能にするほか、2か月に一度の報告会議で共有しています。日々の昼礼や各種会議では、職員一人ひとりの気づきや工夫について意見を出し合い、業務改善や質の向上に活かす仕組みを設けています。目標達成や課題解決に向けては、役割分担をおこないつつ、副主任や園長が必要に応じてサポートする体制をとっています。職員間の良好な関係を基盤に、互いに相談しやすい雰囲気を作り出し、チーム全体で意見を出し合って対策を導き出すことで、効果的な組織運営につなげています。

7	<p style="text-align: center;">カテゴリー 7</p>
<p>事業所の重要課題に対する組織的な活動</p> <p style="text-align: center;">サブカテゴリー 1 (7-1)</p>	
<p>事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている</p>	
<p>評価項目 1</p>	
<p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている (その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動 (評価機関によるまとめ)</p>	
<p>園では保育理念「生きる力を創る」の実現に向け、保育環境の改善に取り組んでいます。従来環境においては、安全面を最優先するあまり、子ども自身が玩具を自由に手に取ることができず、主体的な選択が困難な状況にありました。この課題を解決するため、子どもが自ら遊びを選び没頭できる環境の構築を目標に掲げ、各クラスの発達段階を考慮した上で玩具の種類や棚の配置を根本から見直す計画を行いました。取り組みとしては、子どもが興味を持てるよう玩具の選定をおこない、特におもちゃごとキッチン等を常設コーナーとして設置するなど、安全性を確保しつつ主体的に関われる環境を整えました。取り組みの結果、子どもたちが好きな遊びを自由に選び、以前よりも深く遊び込む姿が見られるようになりましたが、変化し続ける子どもの育ちに合わせて継続的な見直しが必要であることも確認しました。検証結果を踏まえ、2025年度はさらなる環境の充実を目指して音楽や感触遊びなど、新たな分野の導入を開始しています。今後は職員間で目指すべき子どもの姿を共通認識として深く共有し、本格的なコーナー保育スタイルの構築に向けて、次なる改善サイクルからより良い保育環境の整備に努めていく方針です。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった (目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目 1 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>保育所保育指針において乳幼児の主体性を育む環境構成が重要視されるなか、過度なリスク回避に基づく管理的な保育からの脱却は、多くの施設にとって専門的かつ経営的な課題です。当園の事例では、「生きる力」という抽象度の高い理念を、「玩具への自由なアクセス」という物理的環境の再構築へと具体的に落とし込み、論理的な課題解決を図っています。特筆すべきは、この改革の推進力が、非常勤職員からキャリアを重ね、現場の機微や課題を熟知した園長のリーダーシップにある点です。園長は、自身の構想を一方向的に通すのではなく、職員との対話を重視し、現場の気づきやアイデアを丁寧に汲み取るボトムアップ型のアプローチを徹底しています。この手法は、職員の参画意識とモチベーションを最大化させ、組織の潜在能力を引き出すマネジメントと言えます。このような体制下で反復されるPDCAサイクルは、単なる環境改善の成果にとどまらず、全職員が自律的に質の向上を志向する強固な組織文化を醸成するものです。この取り組みが、将来にわたる持続的な成長能力を確立するための着実な進展となることを期待します。</p>	
<p>評価項目 2</p>	
<p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている (その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動 (評価機関によるまとめ)</p>	
<p>園では保育理念「生きる力を創る」の実現に向けて、組織改革に取り組んでいます。2024年度は園長・副主任の就任や新卒職員の入職により体制が大きく変化したため、マニュアルに基づく円滑な業務遂行と新体制の構築を重要課題として計画しました。実行策として、新卒職員にはメンター制度を導入し、一年間を通して子どもや保護者との信頼関係構築を支援しました。また、園長が現場で方向性を示しつつ、職員の意見を反映した行事の改善や積極的な園内研修をおこない、チームワークの醸成に努めました。取り組みの結果、試行錯誤を経ながらも協力体制の基盤が確立し、安定した業務運営の中で一人ひとりに寄り添う保育が実践できるようになりました。取り組みの成果を評価する一方で、さらなる専門性の向上が必要であると検証し、改善策として2025年度は毎月の定期的な園内研修を計画に組み込みました。今後は良好な人間関係を土台に、園長・副主任を中心とした指導・サポート体制を強化し、全職員が一丸となって理念の達成を目指すことで、次なる成長のサイクルへとつなげていくことを目指しています。</p>	
<p>目標の設定と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った

取り組み	<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目 2 で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>多様化する保育ニーズや労働人口減少という社会課題を背景に、保育の質を担う人材の確保と定着、そして組織マネジメントの機能強化は、現代の施設運営における重要なテーマです。当園の取り組みは、新体制への移行期において、メンター制度による精神的支援や、業務の標準化といった具体的な組織戦略へと落とし込み基盤を固めました。その核心は園長が実践する「インクルーシブなリーダーシップ」にあります。園長が非正規職員時代に感じた「発言の壁」を教訓に、作業の手を止めて傾聴する姿勢は、職員の心理的安全性を高める取り組みです。また、多様なキャリアや背景を持つ職員一人ひとりの「個」を尊重し、丁寧な対話を通じて育成を図るマネジメントが、会議の活性化や自律的な課題発見を可能にしています。相互信頼と対話を軸としたこの改善活動は、組織全体が主体的に学び続ける「学習する組織」への変革を促すものであり、将来にわたる持続的な成長と理念の具現化に向けた着実な進展が期待されます。</p>	

〔サービス分析：小規模保育事業〕

II サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No	共通評価項目	
1	サブカテゴリー1	
	サービス情報の提供	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1	
	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	
	評点（ ●●●● ）	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
○非該当		
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
○非該当		
サブカテゴリー1の講評		
サブカテゴリー1の講評を入力してください		
<p>① ホームページやパンフレット・足立区ホームページにて園の情報を提供しています 園の情報は、法人のホームページや足立区ホームページ、パンフレットに加え、保育園検索サイトや東京都保活ワンストップサービスポータルサイトを通して提供しています。更新は年度ごとに法人担当者がおこない、パンフレットは園長が内容を確認し管理しています。園は交通量の多い国道に面しているため、テラスの柵や玄関付近にパンフレットを自由に手に取れるポケットを設置し、通行中の利用希望者が気軽に情報を入手できるよう工夫しています。多様な媒体と設置方法を活用し、園の情報が届くように取り組んでいます。</p> <p>② ホームページでの掲載内容の工夫や外国語対応など特性を考慮した情報提供をしています 園の情報発信では、ホームページに園長からのひと言を掲載し、園の特徴や大切にしている考えを分かりやすく伝えていきます。あわせて保育理念や保育方針、年間の行事予定、一日の保育の流れを記載し、園生活の全体像が具体的にイメージできるようにしています。保育の様子や園内の写真も掲載し、雰囲気や伝わるように工夫しています。また利用希望者の特性に配慮し、必要に応じて外国語に対応できる翻訳機能を活用した案内や資料を用意し、理解しやすい情報提供に努めています。</p> <p>③ 園見学は希望者の都合に合わせて柔軟に対応し、保育の特徴を丁寧に説明しています 園では、利用希望者が見学しやすいように、東京都保活ワンストップサービスポータルサイトに園見学の受け入れ可能日時を掲載し、2か月先までの予定から都合に合わせて申し込みができるようにしています。電話での問い合わせも随時受け付け、家庭ごとの事情に応じた調整をおこなっています。園見学は園長が対応し、実際に保育室に入ってもらいながら、小規模園ならではのこども一人ひとりに寄り添った関わりや、安心して健康に過ごせるように配慮したゆったりとした保育の考え方を丁寧に説明しています。</p>		
2	サブカテゴリー2	
	サービスの開始・終了時の対応	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1	
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		
評点（ ●●● ）		
評価	標準項目	

	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2			
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点 (●●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
		サブカテゴリー2の講評	サブカテゴリー2の講評を入力してください
	<p>① 重要事項の読み合わせをおこない、園の基本的なルールについて説明しています 園では、サービス開始にあたり入園前面接をおこない、重要事項説明書などの書類を保護者と一緒に1ページずつ読み合わせ、基本的なルールや園での考え方を丁寧に説明しています。その際には、ルールを設けている理由やこれまでの事例も伝え、内容への理解が深まるように工夫しています。説明後は重要事項説明書について同意書を取り交わし、あわせて肖像権に関する同意についても確認し、保護者の意向を把握しています。同意が得られていない事項については職員会議で全職員に周知し、個人ファイルに記録を残しています。</p> <p>② 利用開始時には短時間から慣れ保育を実施し、こどもの負担を軽減しています 園では利用開始直後の環境変化による不安やストレスを和らげるため、入園前面接でこどもの好きな遊びやキャラクター、音楽などを丁寧に聞き取り、園生活になじみやすい関わりをおこなっています。入園当初は短い時間から慣れ保育を取り入れ、なじみのある音楽を流すことや、好みに合った玩具を手にとれるような環境を整えています。園での様子は連絡帳に詳しく記載し、迎えの際には安心して遊ぶ姿の具体的なエピソードを口頭でも伝えています。あわせて遊びの様子を動画で共有するなど、保護者の不安軽減にも配慮しています。</p> <p>③ 成長を伝えるなど、自信を持って次の環境へ進めるように温かく送り出しています 園ではサービスの終了にあたり、こどもと保護者が自信を持って次の環境へ進めるように丁寧に関わっています。これまでの成長やそのこどもならではの良さを具体的に言葉で伝え、安心して新しい園生活を迎えられるように促しています。また卒園後や退園後も遊びに来られることを伝え、慣れ親しんだ園とのつながりが続く安心感を持ってもらえるようにしています。退園や卒園の際にはお別れ会をおこない、最終登園日には在園している職員とこどもたちで見送りをし、思い出のカードを手渡すことで、園生活が楽しい経験として心に残るように配慮しています。</p>		
3	サブカテゴリー3		
	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1		
	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点 (●●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当

●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目 2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点 (●●●●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目 3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点 (●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目 4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している 評点 (●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評 サブカテゴリー3の講評を入力してください		
① 連絡帳や保護者からの申し出を通じて、こどもの状況の把握に努めています 園では、保育に必要なこども一人ひとりの情報を、家庭との継続的なやり取りを通して把握しています。毎日の連絡帳で発達や生活の様子を共有し、昼礼ではその日の姿を職員間で確認し園日誌に記録しています。毎月のクラス会議では一か月の様子を振り返り、援助や配慮の方法について意見を交わし対応を整えています。家庭状況や健康状態に変化があった場合は随時申し出てもらい内容を更新しています。予防接種については、実施日を確認し、半期に一度母子手帳の記録を確認して個人ファイルに整理し、正確な健康情報の把握に努めています。		
② こども一人ひとりの実態に沿った指導計画の作成に取り組んでいます 園では、全体的な計画を保育所保育指針にもとづき毎年見直し、法人が作成した内容をベースに園長と副主任が中心となって立案しています。指導計画は全体的な計画を踏まえ、日々の保育の中で捉えたこども一人ひとりの姿や発達の様子を反映し、各領域のつながりを意識して作成しています。毎月のクラス会議ではクラス担任の気付きに加え、他の職員の視点も共有し、課題や配慮点を話し合いながら園全体で検討を重ねています。こどもの実態に沿った指導計画となることを大切にしています。		
③ 昼礼や園日誌などの記録を通じて、職員間でこどもの情報を共有しています		

	園では、こどもの情報を職員間で確実に共有するため、保育施設向けICTシステムを活用し、各職員が連絡帳を閲覧して日々の様子を把握しています。毎日昼礼をおこない、クラスごとにこどもの状況を報告し合い、その内容を園日誌に記録しています。昼礼に参加できなかった職員は園日誌を確認し、確認済みの記録を残すことで情報共有を徹底しています。早番で得た情報は口頭で伝達するとともに登園・降園申し送り表に記入し、順次出勤する職員が確認して引き継いでいます。		
5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
	評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点 (●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
	評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点 (●●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	サブカテゴリー5の講評		サブカテゴリー5の講評を入力してください
	<p>① 入園時に丁寧な説明をおこない、情報の取り扱いについて保護者の同意を得ています</p> <p>園では、保護者に対し、入園前面接の場で重要事項説明書を用い、内容を口頭で一つひとつ読み合わせながら説明と確認をおこなっています。あわせて個人情報の取得および使用に関する同意書への記名押印を依頼し、理解と同意を得ています。また、虐待が疑われる事案などが生じた場合には、関係機関へ報告する義務があることについても丁寧に説明し、納得してもらえるように努めています。入園後に新たな情報共有が必要となった場合には、個人面談の時間を設け、他の保護者が来園する時間帯を避けて実施し、安心して話ができる環境を整えています。</p> <p>② 人権を尊重した関わりを大切にし、こどもの気持ちや意思を尊重しています</p> <p>園では、こどもの人権を尊重した関わりを大切にし、法人が作成したマニュアルを各保育室の目に付く場所へ掲示し、職員一人ひとりが日々確認しながら自らの関わりを振り返ることができる環境を整えています。特にこどもを呼び捨てにしないことを最重要項目として位置付け、声掛けの場面だけでなく職員間で話題にする際にも徹底しています。また抱き上げるなどの補助や介助をおこなう前には、「抱っこしていいかな」などと必ず声をかけ、こどもの気持ちや意思を尊重した関わりに努めています。</p> <p>③ 虐待防止に関する研修を受講するほか、自己評価を実施し日々の保育を振り返っています</p> <p>園では、虐待防止に向けて、全職員が保育施設向けICTシステムを活用した動画研修を受講し、報告書を提出しています。また、足立区の関係機関が開催する要保護児童対策地域協議会には年に1回園長が参加し、最新の情報や対応の方向性を把握しています。職員は、年に2回自己評価をおこない、その結果をもとに園長との面談を通して課題を整理し、こどもや保護者の多様な価値観や生活習慣に寄り添った関わりができるように取り組んでいます。</p>		
6	サブカテゴリー6		

事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目 1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点 (●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目 2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点 (●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリ 6 の講評

サブカテゴリ 6 の講評を入力してください

① 法人作成の各種マニュアルを整備し、園の実情に応じた対応を加えています

園では、園外保育やプール遊びの安全管理、苦情対応、事故防止、不審者対応、応急手当、発達支援、虐待防止、災害対応など、系列園共通として法人が作成したマニュアルを基本に整備し、園の実情に応じた対応を加えて周知しています。あわせて足立区が作成したアレルギー対応マニュアルや官公庁が示すガイドラインも活用し、保育の質と安全性の確保を図っています。年度始めには、職員会議でマニュアルの読み合わせをおこない、具体的に説明することで理解を深め、日々の保育に活かせるように努めています。

② 保育の心得を職員に配布するほか、マニュアルの読み合わせをおこなっています

園では、法人が作成した「木下の保育園・保育の心得」を、社会人として、また保育に携わる職員として大切に考える考え方を共有するため、常勤職員一人ひとりに配布し、いつでも確認できる体制を整えています。あわせてその他の各種マニュアルは事務所の手に取りやすい場所に保管し、必要な時に自由に確認や見返しができるような環境を整えています。年度始めには職員会議の場で読み合わせをおこない、内容の理解を深めています。また年度途中においても読み合わせの機会を設け、マニュアルにもとづいた統一した対応が継続できるよう取り組んでいます。

③ 保護者や職員の意見を把握し、保育や行事の振り返りに活用しています

園では、保護者が参加する行事の終了後に必ずアンケートを実施し、寄せられた意見を集計して公表しています。アンケート結果は、保育の進め方や行事の取り組みを振り返る材料として活用し、必要に応じて見直しをおこなう機会を設けています。また職員がマニュアルの内容に疑問や改善点を感じた場合には、職員会議や昼礼で問題提起をおこない、話し合いを通して改定につなげています。実際に保護者の意見を受け、保育中の写真の公開や販売期間を見直し、利用しやすい期間へと改善するなど、意見を反映した運営に取り組んでいます。

III サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達状態に応じた保育を行っている	評点（ ●●●●● ）	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつぎ等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
		評価項目1の講評	評価項目1の講評を入力してください
<p>① 昼礼を実施するほか、発達記録を用いてこどもの成長を把握しています 園では、子ども一人ひとりの発達や日々の姿を丁寧に把握するため、毎日の昼礼でクラス担任が様子を報告し、職員全体で共有しています。担任のみが関わるのではなく、全職員がこどもと関わりながら複数の視点で成長や変化を捉え、それぞれに合った援助の方法について意見を出し合っています。集団生活の中でも一人ひとりの思いや発達段階を尊重し、無理のない関わりを心掛けています。また保育施設向けICTシステムを活用し、年齢や月齢に応じた発達項目を確認する発達記録を用いて、心身の成長を継続的に記録し、保育に活かしています。</p> <p>② 遊びを選べるようにコーナーを設定するほか、生き物の飼育を通して関心を広げています 園では、子どもが主体的に周囲の人やもの、ことに興味や関心を持てるように、環境作りを大切にしています。遊びや玩具を自分で選べるよう玩具棚を配置し、おままごと用のキッチンを設けたコーナーを整えることで、こどもが自ら遊び始められるよう促しています。あわせて生き物の観察や飼育に触れられる場を用意し、小さな命への関心が広がるように配慮しています。こどもが気付いたことや感じたことをもとに主体的に関われる環境を提供し、興味が深まるように日々の保育に取り入れています。</p> <p>③ 個性を尊重した関わりをおこない、互いの違いを認め合い尊重する気持ちを育てています 園では登園後や降園前に合同保育をおこない、年齢の枠を越えて子ども同士が自然に関わることができる環境を整えています。外国籍のこどもとの日常的な関わりを通して、言葉や文化の違いに触れ、互いの違いを認め合い尊重する気持ちが育つようにしています。特別な配慮が必要なことも大切な個性の一つとして捉え、子ども同士が関わり合いながら成長できるように働きかけています。園生活は他者との関係を学ぶ大切な場と考え、トラブルが生じた際にはすぐに介入せず近くで見守りながら思いを代弁するなど他者との関わりを学べるように働きかけています。</p>			
2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点（ ●●●●● ）	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当

●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評 評価項目2の講評を入力してください		
<p>① 保護者との情報共有を通じて密に連携し、こどもの生活の連続性に配慮しています 園では保護者と密に連携し、こどもの生活状況や体調を丁寧に把握するように努めています。登園時は原則として担任が対応し、事前に保育施設向けICTシステムの連絡帳に入力された内容を確認したうえで受け入れをおこなっています。特に健康面については、体調の変化や家庭でのけがの有無などを保護者と細かく共有し、安心して過ごせるように配慮しています。降園時には担任からその日の様子を具体的なエピソードを交えて口頭で伝え、日々のやり取りを通して信頼関係が築けるように取り組んでいます。</p> <p>② こどもの発達に応じて丁寧にに関わり、楽しみながら生活習慣の獲得を促しています 園では食事や排せつなどの基本的な生活習慣が無理なく身につくように、こども一人ひとりの発達や様子に応じて丁寧に関わっています。食事については咀嚼やく飲み込みの状況を確認し、食材の切り方や形態を細かく調整しています。また生活の中でこどもが主体的に身の回りのことに取り組めるように、耳なじみの良い言葉やリズムを用いて必要な動きを伝えることで、自然と口ずさみながら行動につながるように配慮し、こども自身が意欲を持って生活習慣を身に付けられるように促しています。</p> <p>③ こどもの状態や活動量に応じてひるねの時間を設け、休息できる環境を整えています 園では年齢や発達に応じてひるねの時間を調整し、無理なく休息できるように配慮しています。0歳児は、早くひるねに入れるように給食の時間を早めに設定しています。また、日中の活動量や体調を踏まえて睡眠のタイミングを調整しています。入眠までに時間がかかる場合は、周囲が起床した後も安心して休めるよう環境を整え、早く眠くなるこどもには布団を早めに用意して落ち着いて眠れるようにしています。早く起きたこどもには静かに横になって過ごすことを促し、必要に応じて別室で静かに遊べる場を設けるなど、状況に応じた対応をおこなっています。</p>		
3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点 (●●●●●●)	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもががまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評 評価項目3の講評を入力してください		
<p>① 遊びに応じて机の配置を工夫するなど、遊びこめるような環境整備に取り組んでいます 園ではこども一人ひとりが興味や関心を持ち、自主的に遊びを選べるように、玩具や絵本を手に取りやすい場所に配置し環境を整えています。パズルなど一人でじっくり取り組む遊びについては、集中して遊び込めるように机を</p>		

保育室の端や壁沿いに配置し、周囲の影響を受けにくい工夫をしています。その際職員は、適度な距離を保って見守り、必要な時に援助できるように配慮しています。また、こどもの興味関心が高いリズム遊びや体操遊びなどをもとに集団遊びを設定し、こども自らが参加したいと感じられるように働きかけをおこなっています。

② こどもの表現に丁寧に応じることで、言葉で表現しようとする意欲を育てています
園では職員や友だちとの関わりを通して、言葉で表現することが楽しいと感じられるような関わりを大切にしています。こどもが発した声や言葉、身振りに対しては目を見て笑顔で応じ、言葉や身振りで丁寧に返すことで、伝えたい思いが受け止められる経験につながるよう努めています。こうしたやり取りを重ねる中で、伝えることや伝わることの喜びを感じ、自ら言葉で表現しようとする意欲が育つように働きかけています。日常の保育の中で一人ひとりの表現を大切に、安心して言葉を使える環境作りを心掛けています。

③ リトミックや季節の製作などさまざまな表現を楽しめる機会を取り入れています
園では音楽やリズムに合わせた身体表現として、月に一度リトミック専門講師によるレッスンを取り入れています。担任はレッスン内容を日々の遊びの中にも取り入れ、普段の保育でも表現遊びを楽しめるように努めています。また、毎月季節に合ったテーマで製作活動をおこない、絵の具遊びでは事前に汚れても良い服の準備を保護者にお願ひし、安心してのびのびと取り組める環境を整えています。さらに戸外遊びを積極的に取り入れ、自然に触れながら探索活動を楽しむことで、表現する楽しさや豊かな感性が育つように工夫しています。

4 評価項目 4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点 (●●●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目 4 の講評 評価項目 4 の講評を入力してください

① 日常の活動を行事に取り入れることで、興味をもって取り組めるように工夫しています
園では行事に向けた取り組みを進めるにあたり、こどもの興味や関心、育ちの姿を大切にしています。乳児では、月齢による成長や発達の差が大きいため、その点を踏まえた計画と実施を心掛けています。運動会では日常の保育でおこなっている運動遊びをもとに、こどもの興味や関心に合ったテーマを設定し、関連する絵本の読み聞かせや音楽を取り入れ、楽しみながら取り組めるように配慮しています。行事後は職員全体で振り返りをおこない、乳児ならではの視点を共有し、次の行事につながる改善に活かしています。

② 行事に向けて協力して製作に取り組むなど、みんなで協力する機会を設けています
園ではこどもがやり遂げる喜びを感じられるように、日々の保育の積み重ねを大切にしたい行事の進め方をおこなっています。行事に向けて特別な練習を重ねるのではなく、日常の遊びや活動が自然に行事につながるよう計画し、当日も保育の延長として楽しめるようにしています。運動会やクリスマスなどの行事では、3クラス合同で一つの作品を作り上げる製作活動を取り入れ、みんなで協力して完成させる経験ができるように工夫しています。また運動会では保護者も参加し、親子でともに楽しみながら達成感を共有できる機会となるよう取り組んでいます。

③ 行事に実施に関する丁寧な説明や動画を共有し、保護者の理解や協力を得ています
園では保護者に参加いただく行事において、こどもが安心して取り組めることを最も大切にし、普段と変わらない環境の中で実施するように配慮しています。限られたスペースでの開催となるため、参加人数や保育室への入室方法については、事前に行事のおたよりで丁寧に案内し、当日も改めて説明をおこない理解と協力が得られるように努めています。さらに卒園式や運動会では練習の様子を動画で記録し、当日緊張や不安から思うように参加できなかった場合にも、日々頑張っていた姿を保護者に見てもらえるように工夫しています。

5	評価項目 5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点 (●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
	評価項目 5 の講評		評価項目 5 の講評を入力してください
<p>① こどもの様子を丁寧に見守り、1日を通して安心して過ごせるように配慮しています 園ではこどもの小さな変化にも目を向け、心身ともに安定した一日が過ごせるように配慮しています。特に体調の変化が起こりやすい乳児の長時間保育では、体調面だけでなく気持ちの安定や疲れの様子、食欲や排せつの状態など、全体的な姿を丁寧に見守っています。大きな変化が見られない場合でも、いつもと違う様子を感じ取った際には、1対1でのスキンシップを大切に、落ち着いて関わられる時間を設けたり、ひるねの時間を早めたりするなど状況に応じた配慮をおこなっています。</p> <p>② 少人数ならではの遊びを展開するなど、楽しく過ごせるように工夫しています 園では延長保育の時間帯においても、こどもが安心して楽しく過ごせるように工夫しており、早番の時間帯は9時20分まで合同保育とし、異年齢のこども同士が自然に関わる環境を整えています。夕方は16時30分までは各クラスで過ごし、その後の遅番時間帯には再び合同保育をおこない、年齢の違いを超えた関わりが持てるようにしています。延長保育では普段とは異なる玩具を用意することや、こどもの希望に応じて保育室を暗くして懐中電灯を使った探検ごっこをおこなうなど、少人数ならではの丁寧な関わりを大切にしています。</p>			
6	評価項目 6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点 (●●●●)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
	●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当	
評価項目 6 の講評		評価項目 6 の講評を入力してください	
<p>① 楽しく食事ができるように、こどものペースで食事をとれる環境を整えています 園では、こどもにとって楽しい食卓、嬉しい食事の時間となるように日々の関わりを大切にしています。各クラスにおいてこどもの発達やその日の様子に合わせた無理のないペースで、落ち着いて食事が進められるように環境作りをおこなっています。安全面にも十分配慮し、こどもの口の中の様子を確認しやすいように、職員とこどもが正面で向かい合って座れる机や椅子の配置を整えています。「おいしいね」などの声掛けを職員や友だちと交わしながら食事を進めることで、共感する喜びを感じ、食事の時間が心地よく楽しいものとなるように工夫しています。</p> <p>② 保護者と連携し体調に応じた食事を提供するなど、安全面に十分に配慮しています 園では、保護者と丁寧に連携し、こどもの体調面やアレルギー、文化の違いによる食材提供への配慮を確認しながら給食を提供しています。体調に応じて牛乳を麦茶に変更するなど柔軟に対応し、必要に応じてアレルギー対応や文化の違いによる食材の除去をおこなっています。また、歯の生え具合など身体の発達の違いに寄り添い、一人ひとりに合わせた食材の形状で提供しています。心理面にも配慮し、アレルギー食の対象となるこどもが疎外感を抱</p>			

かないように担当職員が1対1でそばにつき、明るい声掛けをおこない楽しく食事ができるように努めています。

③ 食への興味や関心を育むため、栽培や食材に触れる体験を提供しています
園では、年度始めに保育士と栄養士が協力し、年間の食育活動計画を立案し担当を決めています。毎月の食育活動では、季節の食材に触れる体験や、食を通して日本の文化を知る内容、栽培体験をバランスよく取り入れ、継続して経験できるように計画しています。トマトやきのこの栽培では、水やりや苗の植え付けなどを年齢に応じておこない、事前に関連する絵本を読み聞かせて関心を高めてから活動を進めています。とうもろこしの皮むきなど食材に直接触れる機会も設け、食への興味や関心が自然に広がるように工夫しています。

7	評価項目 7		評点 (●●●)
	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当	
評価項目 7 の講評		評価項目 7 の講評を入力してください	
<p>① 手洗いについてなどの保健指導を発達に合わせて分かりやすくおこなっています 園では、保健指導として、手洗いについて学ぶ機会を設けています。親しみのあるキャラクターが登場する動画や絵本を活用し、手洗いの手順を分かりやすく丁寧に伝えています。日常的に継続できるように、手洗い場のこどもの目に留まりやすい位置にイラスト入りのポスターを掲示し、感染症の流行期には動画を用いて改めて確認をおこなっています。また、毎月月末にはその月に発生したヒヤリハット事案を分析し、結果や対応策を含めて共有しています。職員一人ひとりが内容を確認し、園全体でこどもの怪我防止と安全な環境作りに取り組んでいます。</p> <p>② 健康診断を実施するなど嘱託医と連携し、こどもの健康管理に取り組んでいます 園では、医療的なケアが必要なこどもの受け入れにあたっては、看護師を配置し、看護師と担任が連携して、こどもの状態や医療的ケアの方法について丁寧に理解を深めたうえで対応することを想定しています。必要に応じて医療機関とも定期的に連携を図り、安心して園生活を送れるように努めています。また、園では嘱託医による健康診断を年2回おこなっています。健康診断の機会を活用し、こどもの健康状態について気になる点や相談事項がある場合には嘱託医に相談し、助言や経過を共有しながら、園全体でこどもの健康管理に取り組んでいます。</p> <p>③ 乳幼児突然死症候群を予防するために、家庭でのこどもの様子を丁寧に聞き取っています 園では、一人ひとりのこどもの寝る姿勢の特徴について、入園時や日常のやり取りを通じて保護者から丁寧に聞き取りをおこなっています。園では乳幼児突然死症候群を予防するため、仰向け寝を徹底していることを保護者に説明し、共通理解を図っています。横向きやうつ伏せで眠ることが習慣となっている子どもについては、家庭でも仰向け寝が定着するように担任が理由を伝えながら協力をお願いしています。また、感染症が発生した際には、玄関への掲示とあわせて口頭でも状況を伝え、家庭での健康管理に活かしてもらえるように取り組んでいます。</p>			

8	評価項目 8		評点 (●●●●●)
	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	

●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目 8 の講評 評価項目 8 の講評を入力してください		
<p>① 保護者の事情を把握し、外国語資料を用意するなど柔軟に対応しています 園では、保護者一人ひとりの事情を丁寧に把握したうえで、関わるように努めています。外国籍の保護者に対しては、行事など重要な内容を伝える手紙について、母国語に翻訳した文章を用意し、内容が理解できているかを声掛けして確認しています。連絡帳では、簡単に分かりやすい日本語を用いて記載し、あわせて登降園時にはジェスチャーを交えながら口頭でも説明し、こどもの様子が正確に伝わるよう配慮しています。また、家庭環境など特別な配慮が必要な場合には、個人面談を設定するなど安心して園生活を送れるように支援しています。</p> <p>② 日々の会話でこどもの様子を丁寧に共有するなど、信頼関係の構築に取り組んでいます 園では、毎日の登園時の受け入れや降園時の対応を基本的に担任がおこない、その場でこどもの様子を丁寧に共有しながら、笑顔でのやり取りを心掛け、保護者との信頼関係が築けるように取り組んでいます。また園長も、保護者が気軽に話しかけやすい雰囲気作りを大切にし、保育中の様子や担任以外の立場から感じた成長の姿などを、挨拶の延長として伝えています。さらに、年に2回の個人面談を通して、対面でじっくり話をする機会を設け、こどもの発達や日々の様子について共通認識が持てるように取り組んでいます。</p> <p>③ 年2回保護者会を実施し、意見交換など保護者同士が交流できる機会を設けています 園では、保護者同士のつながりが深まり、安心して子育てについて話し合える関係が育つことを大切に考え、年に2回保護者会を実施しています。新年度が始まり一か月ほど経過した時期には、おやつを試食を兼ねた保護者会をおこない、担任と保護者、保護者同士が自己紹介を通して親しみを持てるように工夫しています。運動会後には、担任がテーマを設定し、くじ引きやサイコロなどを活用して和やかな雰囲気の中で意見交換ができる場を設けています。行事と同日に開催することで、参加しやすいように工夫しています。</p>		
9	評価項目 9	
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点 (●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目 9 の講評 評価項目 9 の講評を入力してください		
<p>① 消防署や図書館など地域資源を活用し、多様な体験を積む機会を設けています 園では、地域資源を活用した戸外活動を通して、こどもが地域の人と関わる経験を大切にしています。園の近隣に消防署があることから、散歩の行き先として消防署を訪れ、消防士の訓練の様子を間近で見学したり、声をかけてもらったりする中で親しみを持った関わりが生まれています。警察との関わりについては、戸外活動中に落とし物を拾った際に交番へ届けるなど、社会の仕組みに触れる機会としています。また、近隣の図書館へ定期的に出かけ、こども自身が読みたい本を選び借りる経験を通して、地域施設を身近に感じられるように取り組んでいます。</p> <p>② 高齢者施設への訪問や買い物体験など、地域との交流をおこなっています 園では、地域とのつながりを大切にしており、高齢者施設のデイサービス利用者とは長年にわたり交流を続けています。園児が施設を訪問して触れ合う機会を設け、世代を越えた関係性を育んでいます。また、近隣の農産物直売所を訪れ、主に1・2歳児が買い物を体験することで、食育活動の一環として食材への関心や社会との関わりを深めています。さらに、近隣の花屋へ出かけ、実際にお金を支払って品物を購入する経験を通して、生活に身近な社会の仕組みに触れられるようにしています。</p>		

〔事業者が特に力を入れている取り組み：小規模保育事業〕

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	栄養士と連携した栽培や調理体験により、こどもの五感を育む食育活動を展開しています	
内容①	職員と栄養士が協働して年間計画を立案し、食育活動を毎月実施しています。テラスでのトマト栽培や室内でのキノコ栽培を通して収穫の喜びを味わい、トウモロコシの皮むきやカボチャの種取り、季節を感じるスイカ割りなど、五感を使って食材に触れる多彩な機会を設けています。また、0歳児はラップ越しのご飯を握る感触を楽しみ、1・2歳児は自分でおにぎり作りに挑戦するなど発達に応じた調理や、近隣直売所での買い物体験もおこなっています。豊かな実体験を通じて食材への関心を深め、家庭とも連携しながら成長を支える環境作りに努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	外部講師の導入や保育者の実践により日常的に音楽に親しみながら表現力を育んでいます	
内容②	2025年度より表現活動の充実を展開するため、外部の専門講師による0歳児から参加できるリトミックを月に一度実施しています。また、運動会では親子リトミックをおこない、音楽に乗って身体を動かしダンスする楽しそうな姿を保護者と共有しています。さらに、講師の動きを真似て楽しむだけでなく、職員がその手法を学び日々の遊びに取り入れることで、日常的に音楽に親しむ環境が定着しています。音への反応や表現する喜びを共有し、心身を開放してのびのびと活動することで、豊かな感性と表現力の芽を大切に育んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	長期的な視点で研修や支援体制を整備し、安心して働ける環境作りに取り組んでいます	
内容③	2025年時点で在籍する職員の平均年齢が27.4歳と、若手が多い現状を踏まえ、長期的な視点での人材育成と定着率の向上に注力しています。日々の保育実践を通じて自信とやりがいを持てるよう、研修の充実に加え、副主任を中心とした手厚いサポート体制を構築しています。メンター制度やこまめな対話をおこない不安の解消に努め、職員一人ひとりが失敗を恐れずに新しいことにも挑戦できる環境を整えています。安心して長く働き続けられる職場を作ることによってチームワークを強化し、保育の質向上と組織全体の活性化を実現できるよう取り組んでいます。	

〔全体の評価講評：小規模保育事業〕

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	小規模園の特性を活かし、全職員で成長を見守るきめ細やかな保育をおこなうとともに、密な保護者連携により信頼関係の構築に努めています
	内容	小規模園という特性を活かし、家庭的でアットホームな雰囲気の中でこども一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな保育に取り組んでいます。担任だけでなく全職員で全園児の成長を見守り、多角的な視点から日々の気づきや意見を出し合い検討することで、必要な援助や関わり方を導き出しています。また、保護者との連携を重視し、連絡帳の記録に加え、登降園の際の対話を通じて日々の様子を細やかに共有しています。口頭でもエピソードを交えて伝えることで、園で過ごす生き生きとした姿をより深く知ってもらい、信頼関係の構築に努めています。
2	タイトル	プログラムを活用し生き物の飼育体験を通して命の不思議さに触れることで、探究心やわくわくする気持ちを大切に豊かな感性を養っています
	内容	園は「とうきょうすくわくプログラム」に参加し、テーマに沿った探究活動の一環として、戸外で見つけたカタツムリや絵本に登場するアオムシ、金魚などを飼育し、こどもたち自身がお世話をする機会を設けています。アオムシがさなぎを経て蝶となり、空へ飛び立つ姿を全員で見送る活動は、生命の尊さや不思議さを肌で感じる貴重な機会となっています。プログラムが目指す「わくわく」する気持ちを大切に、絵本の世界から実体験へと繋がり観察できる環境を整えることで、こどもたちの興味や関心を深め、豊かな感性や自ら発見する力を育てています。
3	タイトル	職員間の良好な関係性と協力体制により安心して働ける環境を築き、研修への積極的な取り組みを促すことで組織全体の成長を図っています
	内容	日頃から細やかな声かけや積極的なコミュニケーションを重ね、職員が安心して働けるよう気軽に相談できる雰囲気づくりを大切にしています。会議などで誰もが意見を発信しやすい風通しの良い職場環境に加え、小規模園ならではの密な連携を活かして互いに支え合う強固な体制を構築しています。また、職員同士が協力して業務を調整することで、勤務時間内に研修へ積極的に取り組む時間を確保しています。共に学び成長できる環境を整えることで、職員間の良好な関係性を築き、組織全体の保育の質の向上につなげています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	専門性を活かした未就園児向けイベントや保護者参加型イベントを計画し、地域の子育て拠点としてつながりを深めることを目指しています
	内容	園では専門性を活かした地域貢献として、現在は一時保育や見学実習の受け入れをおこなっています。今後は取り組みをさらに発展させ、未就園児家庭向けのイベントやプレママ体験の実施など、地域に開かれた子育て支援機能の強化を目指しています。また、保護者参加型の救命・防犯講習の開催も検討しており、保護者同士の交流や学びの場となるよう検討しています。実習生やボランティアも積極的に受け入れることで地域住民との交流を深め、園が地域の子育て支援拠点として機能し、地域とのつながりがより強固で豊かなものとなることを計画しています。

	タイトル	近隣園との新たな連携から子ども同士が触れ合える機会創出に加え、職員間の交流を通じて学び合い保育の質を高めることを計画しています
2	内容	地域の保育施設と連携するため、公立保育園と園だよりの交換による情報共有をおこなっています。今後は、連携園が遠方のため園児交流が難しい現状を踏まえ、近隣の保育園と新たに関係構築を目指しています。園児が他園を訪問して同年代や年上の子どもたちと触れ合う機会を設けるとともに、職員間でも互いに行き来して交流を持ち、保育の気づきや学びを得られる体制づくりを計画しています。地域内の保育施設との連携を深めることで、園児の社会性を育む豊かな経験が増え、職員の専門性向上にもつながる有意義な交流が実現することを期待します。
	タイトル	高齢者施設との継続的な交流を深めつつ地域の園長会等を通じてネットワークを拡大し、地域全体で子どもを見守る環境づくりを進めています
3	内容	近隣の高齢者施設とは、コロナ禍においても製作物を届けるなどして関わりを継続しています。現在は年二回の訪問を通じて歌や遊びでの対面での交流を楽しんでいます。今後はこの多世代交流を大切に深めつつ、さらなる地域ネットワークの拡大を目指し、地域の園長会等へ参加して、つながりの構築にも取り組んでいます。高齢者との心温まる触れ合いに加え、近隣の保育園との交流機会も創出することで、地域全体で子どもを見守り育てる環境を整えていく方針です。地域の一員として、より重要な役割を果たせるよう計画を進めています。